

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 22年 2月 18日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502371		
法人名	株式会社 香島コンサルタント		
事業所名	グループホーム コマクサの家		
所在地	〒062-0021 札幌市豊平区月寒西1条2丁目1番35号 (電話) 011-853-5093		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年12月13日	評価確定日	平成22年2月18日

【情報提供票より】 (21年 11月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	11月	7日
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27	人
職員数	26人	常勤24人,	非常勤 2人,	常勤換算25人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	3階建ての	～ 全階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円			
その他の経費(月額)	18,000円～21,000円 水光熱費18,000円 暖房費(11月～3月)13,000			
敷金	有(45,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200	円

(4) 利用者の概要(11月 7日 現在)

利用者人数	27名	男性	4名	女性	23名	
要介護1	1名	要介護2	7名			
要介護3	14名	要介護4	3名			
要介護5	2名	要支援2	名			
年齢	平均	84.9歳	最低	73歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東札幌病院、慈啓会病院、武田整形外科医院、美園いとう内科、平川歯科医院
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この事業所の運営理念に「豊かで暮らしやすい地域社会づくり」と掲げられているように、地域密着型事業所としての機能を果たすべく、行政、同系列事業所や近隣の事業所と協力し合いながら運営を行っている。最近、近隣の複数のグループホームとで共同体を立ち上げ、事業所間の相互交流や情報交換、採用イベントに共同参加するなど、互いに切磋琢磨し、サービスの質の向上や、開かれた事業所づくりにも努めていることは評価できる。事業所内では、入居者主体で生活が営まれており、職員は入居者の支援する立場であることを実践していることが確認できた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 事業所の玄関の鍵を日中も掛けている点については、職員間で協議を重ねたり、家族の意向も配慮し、安全を最優先で鍵をかけることとなったが、外出を望む入居者には外出支援を行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ① 職員の異動などにより一部のユニットの運営体制が、一時期不安定になったとのことであるが、職員間で協議を重ね、職員同士協力し合いながら改善に向け前進してきた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議については、近時、実施回数が減少傾向にあり、その機能が十分に活かされない状態になってきている。今後、会議の実施時期の見直しを行ったり、協議するテーマを運営状況の報告のみならず、ホームが掲げている地域密着型事業所の役割を果たすように協力を呼び掛けるなどその機能(会議)が十分に活用されることを望む。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が来訪したときには家族に話しかけたり、要望を聞き出すなど積極的にコミュニケーションを図っているが、家族の満足度をさらに高めるために、訪問の少ない家族やあまり要望を伝えてこない家族に対して、その声を聞き出すような機会を作り、その声を活かしていただくことを望む。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会行事への参加、事業所主催の祭りに近所の方々が参加、地域ボランティアが来訪するなど、日常的な交流は進んできている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に地域密着型事業所として地域社会の中で生活していくということが明示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の内容の理解を実現させるために、毎朝朝礼時に唱和を継続して行っている。この取り組みが日々の支援にも活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の行事やお祭りなどへの参加を通じて地域住民との交流を図っている。日常的には回覧板の回付、事業所の前を通る地域の方との会話などの交流も行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価は、事業所の運営状況を客観的に評価する機会として活用している。自己評価で明らかになった課題については、職員会議などでその対策についての話し合いを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を、事業所の運営状況の報告や推進委員との情報交換の機会として活用しているが、推進委員の日程調整が難しく、本年度の開催は2回にとどまっている。	○	運営推進会議は地域との交流、情報交換を図る貴重な機会であり、継続して開催していただくことを望む。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や区の福祉担当と必要に応じて連絡を取ったり、相談のため訪問の際にはアドバイスなどをもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に対してはコマクサ通信の郵送時や来訪時に入居者の日常の様子を伝えたり、家族から意見を伺ったりしている。 体調が悪化したときには、速やかに報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時などの会話や電話などから寄せられた家族の意見については、職員会議などの話し合いの場で活用している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員退職やユニット間の異動があったときには、入居者のダメージを最小限にするためにユニットリーダーが中心となってチームとして入居者の支援に当たっている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が加入したときには、1週間のオリエンテーションプログラムに基づいて、基礎研修を行っている。	○	入職後、一定期間を経過した職員のフォローアップ研修やフロアリーダーの研修など、その役割に応じた研修プログラムの構築が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内の複数グループホームが連携して、同ホームの管理者が推進役となって、人材募集や情報交換を行っている点は評価したい。	○	今後、このネットワークを通じ、グループホームのサービスの質の向上につながっていくことを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時には、本人・家族・ケアマネジャー・職員が連携し、スムーズに入居できるよう配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	事業所内では、職員が入居者から学ぶことも多く、職員、入居者が相互に支え合いながら生活を共にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事業所内での生活を通じ、入居者の思いを会話などのコミュニケーションを通じて聞き出し、できるだけそれを叶えられるよう支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成については、担当者と計画作成担当者が本人や家族の意向も汲み入れ作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しを行う際に、介護記録や担当者の意見などを参考にモニタリングを行い、その人に必要な支援を盛り込んだ計画を立てている。	○	介護支援経過記録の未記入期間が一部長くなっていたり、ケアの実施状況ではなく、申し送り事項のような記録も散見された。介護計画の見直しに活用できるように、介護計画の実行時の入居者の様子や反応なども盛り込んでいただくことを望む。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居希望者に一時的に利用する機会を設けたり、来訪した家族への宿泊対応、地域の方からの相談への対応などその機能を活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の提携協力病院と連携を取り、必要に応じて受診できるよう協力体制を取っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として重度化した場合の対応の在り方や方針が検討され、職員間においても意向の統一が図られている。既に3名の看取りを経験している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への声かけは、プライバシーを害することなく、丁寧で穏やかに話しかけていることが確認できた。 記録関係も保管場所を定めて管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者主体の事業所であり、職員側の都合で支援するような場面は見られなかった。 日中の場面でも、入所者それぞれ自分の居場所を確保し、ゆったりと過ごしていた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者、職員が同じテーブルを囲み、職員は入居者の食べこぼしなどの支援を必要に応じて対応していることが確認できた。職員から話題を提供するなど、楽しい時間づくりにも配慮していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、入居者の希望を優先して行っているが、入浴を拒否する方については、職員からさまざまな声かけ、誘導のアプローチを試み、入浴するよう支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居間は生活するには十分なスペースが確保されており、それぞれが自分の居場所で好きなことをしながら過ごしていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に希望や要望に沿った外出支援が行われている。近所への買い物、散歩などできるだけ外出できる機会をつくり、その人らしい生活の継続と、気分転換や楽しみごとにも繋がっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の前が通行量の多い道路に面しており、安全面に配慮して家族の同意のもと日中でも鍵をかけていることがある。ただし、外出を望む入居者がいる場合には、職員が付き添い外出支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的実施される防災訓練により消防署からの指導を受けている。 近所の方や運営推進会議の委員にも緊急時の協力は呼び掛けている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、入居者の状態に応じて、調理方法を変えるなどの対応を取っている。 水分補給については、お茶をいつでも飲めるようポットを用意するなど随時補給を行い、必要な水分量を確保している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は入居者が食卓、ソファなどそれぞれ好きな居場所を確保できている。 室内は光が差し込み明るく、清潔感があり、気になる音やにおいも感じられなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれの自分の居場所として使い慣れた家具、写真、手芸品などを持ち込んでいる。		

※  は、重点項目。